

## 市 勢

### 〔位置・地勢〕

本市は、神奈川県のおぼ中央に位置し、都心から40km圏内にあります。市域は南北に細長く、丘陵起伏がほとんどありません。

鉄道は、市の中央部を東西に相模鉄道本線、南北に小田急江ノ島線が走り、北部には東急田園都市線が乗り入れ、市域に8駅があります。また、道路網も、国道16号線、246号線及び467号線のほか県道4線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。

### 〔位 置〕

方位	地名	経緯度
極 東	上和田字宮久保	東経 139° 28' 50"
極 西	中央林間西7丁目	東経 139° 25' 45"
極 南	福田甲6区	北緯 35° 25' 23"
極 北	下鶴間甲1号	北緯 35° 31' 14"
消 防 本 部 深見西四丁目4番6号		東経 139° 27' 35" 北緯 35° 28' 54"

### 〔広ぼう〕

面積 (km <sup>2</sup> )	広 ぼう (km)		海 抜 (m)		
	東 西	南 北	市庁舎位置	最 高	最 低
27.09	3.22	9.79	66.8	91.149	28.328



## 市の沿革

この地は往古、深見郷に属していました。その後、渋谷重国がこの辺り一帯を所領し、享徳（1452～1454）のころには関東管領家執事上杉修理大輔の領域となり、戦国時代には小田原北条氏家臣の采地となりましたが、徳川時代には幕府直轄の地となり、多くの旗本の知行するところとなりました。明治維新後は、神奈川県に属し、明治 22(1889)年 4 月、町村制が実施された際に、下鶴間村、深見村、上草柳村、下草柳村が合併して鶴見村に、上和田村、下和田村、福田村は、長後村、高倉村と合併して渋谷村になりました。

その後、鶴見村では分村問題が発生し、それを收拾するため明治 24(1891)年 9 月、村中が「大いなる和」の願いを込めて村名を大和村と改称しました。ここに「大和」の名称が誕生しました。

大正 15(1926)年 5 月に神中<sup>じんちゅう</sup>鉄道(現在の相模鉄道本線)、昭和 4(1929)年 4 月には小田原急行鉄道江ノ島線(現在の小田急江ノ島線)が開通したことにより、市域は農村から都市へと姿を変えていきます。昭和 17(1942)年、現在の厚木基地に相模野海軍航空隊が、翌 18(1943)年には高座海軍<sup>こうしやう</sup>工<sup>こう</sup>廠<sup>じやう</sup>の関連施設が設置され軍都の色彩を濃くしていく中で、同年 11 月 3 日に大和村が、翌 19(1944)年 11 月 3 日には渋谷村がそれぞれ町制を施行しました。

昭和 20(1945)年、終戦を迎え、連合国軍最高指令官マッカーサー元帥が厚木飛行場に到着。後に同飛行場は米国海軍厚木航空基地となり、基地機能の強化などにより町の様相が大きく変ぼうしました。

昭和 30(1955)年 4 月、渋谷町の長後、高倉が藤沢市に編入し、福田、上和田、下和田が渋谷村となり、翌 31(1956)年 9 月、大和町に渋谷村が合併。昭和 34(1959)年 2 月 1 日に県下 14 番目の市として市制を施行しました。

昭和 40 年代から市内各所で土地区画整理事業が実施され、昭和 45(1970)年 5 月には人口が 10 万人に達しました。昭和 51(1976)年に東急田園都市線がつきみ野駅まで開通し、昭和 59(1984)年には同線が中央林間駅と接続しました。

平成 12(2000)年 11 月 1 日には、全国初の特例市へ移行しました。

現在、市民、企業、行政が協力して、“健康創造都市やまと”を目指し、「住んでいて良かった」と思えるまちづくりを推進しています。

## 人 口 の 推 移

(各年 10 月 1 日現在)

年 別	人 口	世 帯 数	一世帯人員	人口密度	人口増加率 (対前年比※)
昭和 5 (1930) 年	5,047	741	6.81	253	—
15 (1940) 年	6,134	1,047	5.86	308	—
25 (1950) 年	17,586	3,672	4.79	882	—
35 (1960) 年	40,975	10,003	4.10	1,433	11.68%
45 (1970) 年	102,760	29,999	3.43	3,593	10.40%
55 (1980) 年	167,935	53,934	3.11	5,878	1.25%
平成 2 (1990) 年	194,866	71,034	2.74	6,818	1.43%
12 (2000) 年	212,761	84,382	2.52	7,863	0.51%
22 (2010) 年	228,186	97,244	2.35	8,432	1.12%
23 (2011) 年	229,890	98,496	2.33	8,496	0.75%
24 (2012) 年	231,046	99,724	2.32	8,538	0.50%
25 (2013) 年	231,715	100,610	2.30	8,563	0.29%
26 (2014) 年	232,621	101,828	2.28	8,587	0.39%
27 (2015) 年	233,061	101,971	2.29	8,603	0.19%
28 (2016) 年	233,942	103,288	2.26	8,636	0.37%

※ 昭和 5 年～平成 22 年の人口増加率の対前年比は、表中の上段の人口に対する比率ではなく、各年の実際の前年に対する増加率を掲載しています。

例 昭和 35 年増加率 (11.68%) は、次のように算出しています。

$$\frac{40,975 \text{ 人 (昭和 35 年 10 月 1 日現在人口)}}{36,691 \text{ 人 (昭和 34 年 10 月 1 日現在人口)}} \times 100 - 100 \div 11.68\%$$

## 常備消防のあゆみ

昭和29年4月1日	町役場総務課内に常備消防隊を設置し、水槽付消防ポンプ自動車を配置する。
7月26日	現在の鶴間二丁目12番36号に消防庁舎（木造モルタル平屋建141㎡）を新設する。
昭和34年2月1日	市制施行
昭和35年10月3日	消防制度審議会設置
昭和36年12月20日	市役所機構改革により消防課を設置した。初代課長に石井敏雄氏就任
昭和37年4月1日	大和市火災予防条例を制定
昭和38年11月20日	深見764番地に消防庁舎（鉄筋コンクリート二階建349㎡）を新設し、消防課を移転する。
昭和39年2月1日	消防本部（庶務係及び警防係）並びに消防署が消防職員定数30人で発足 初代消防長に 助役 金子正雄氏就任 初代消防署長に佐藤幸光氏就任 大和市消防吏員の服制等に関する規則を制定
3月16日	消防専用短波無線電話（平衡変調式2,121.5KHz帯）を設置し、運用を開始する。
7月1日	大和市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例を制定
7月7日	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車（いすゞTXG20）が寄贈される。
10月1日	消防署に救急自動車（トヨペットダイナRK170）を配置し、救急業務を開始する。
11月20日	大和市防火管理協会設立
昭和40年1月9日	常備消防隊と消防団の出初式が深見小学校で挙行される。 前年末の東門荘火災の際の協力者、第11海兵隊司令官他9人に市長感謝状を贈呈する。
5月25日	消防署に少量危険物貯蔵庫（重量ブロック8.06㎡）を新築する。
5月28日	大和市地域防災計画を策定
7月1日	消防職員定数を40人とする。
12月28日	大和市消防賞慰金及び殉職者特別賞慰金条例を制定
昭和41年3月28日	大和市消防団の設置等に関する条例及び大和市消防団員の定員、任用、

	<p>服務等に関する条例を制定</p>
4月1日	<p>消防職員定数を44人とする。</p>
6月30日	<p>大和市消防本部の組織等に関する規則を制定</p>
7月1日	<p>消防本部組織を庶務係及び保安係とし、消防署に警防係を設置する。</p>
7月30日	<p>大和市消防団員の服務等に関する規則を制定</p>
10月1日	<p>大和市消防団員等公務災害補償条例制定</p>
昭和42年1月7日	<p>消防出初式を草柳小学校で挙行し、新設の消防特別救助隊による救助技術を披露する。</p>
4月1日	<p>大和市消防火の丸会設立</p> <p>第2代消防長に遠藤嘉一氏就任</p> <p>消防職員定数を59人とする。</p>
7月1日	<p>第3代消防長に濱田浅彦氏就任</p>
昭和43年4月1日	<p>消防本部組織を庶務係、予防係及び警防係に改めるとともに、消防署組織では警防係を廃止し、甲部隊、乙部隊及び北分署に改める。</p> <p>下鶴間1763番地の47に北分署を新設し、消防ポンプ自動車（ニッサンFR40）を配置する。</p> <p>第4代消防長に安藤武治氏就任</p>
6月29日	<p>大和市消防職員服務規程を制定</p>
11月25日	<p>火災予防週間に伴う消防総合訓練を大和相高ストア・鶴間サンコーストアで実施する。</p>
昭和44年4月1日	<p>消防職員定数を75人とする。</p>
10月27日	<p>北分署に少量危険物貯蔵庫（重量ブロック4.6㎡）を新築する。</p>
12月18日	<p>大和駅前です死者1人、負傷者が多数生じた火災が発生する。</p>
昭和45年2月4日	<p>北分署配置の消防ポンプ自動車を水槽付消防ポンプ自動車（いすゞTXG10）に更新する。</p>
2月9日	<p>南分署の開設に伴い、消防署組織を甲部隊、乙部隊、北分署及び南分署に改める。</p>
2月10日	<p>大和市消防署南分署（鉄筋コンクリート造2階建）を上和田2740番地に新設し、本署、北分署及び南分署の消防体制により、5分以内の現場到着が可能となる。</p>
2月26日	<p>指令車（ニッサンセドリック）を消防本部に配置する。</p>

8月31日	初代消防署長 佐藤幸光氏が勇退、消防長 安藤武治氏が兼任する。
12月1日	第2代消防署長に天野淳一氏就任
昭和46年3月25日	大和市危険物の規制に関する規則を制定
3月30日	南分署に少量危険物貯蔵庫（重量ブロック 3.977 m <sup>2</sup> ）を新築する。
5月10日	財団法人日本消防協会から広報車1台が寄贈され、消防本部に配置する。
9月25日	大和市消防査察証規則を制定
	大和市消防賞慰金及び殉職者特別賞慰金条例施行規則を制定
	大和市消防団員等公務災害補償条例施行規則を制定
昭和47年3月30日	消防専用無線を短波から超短波に切り替える。
7月1日	消防署の組織を一部改め、本署に消防隊及び救助救急隊を配置する。 消防職員定数を81人とする。
10月1日	梯子付消防ポンプ自動車（24m、いすゞTD70E）を本署に配置する。
昭和48年1月29日	救助資機材を積載した消防ポンプ自動車（いすゞTXG10）を本署に配置する。
2月20日	日本消防協会会長表彰として大和市消防団に「表彰旗」が授与された。
3月30日	携帯用無線機（出力1W）を5基配備する。
4月1日	第3代消防署長に星崎亨氏就任 消防職員定数を95人とする。
9月1日	第5代消防長に土屋栄氏就任
12月10日	救急自動車（トヨタRU18V）を本署に配置し、救急業務の2分隊運用を開始する。
昭和49年1月6日	オイルショックにより消防出初式を中止する。
3月11日	消防本部機能を市庁舎に移転し、業務を開始する。
4月1日	消防本部組織を庶務課及び警防課に改める。 消防職員定数を120人とする。
9月2日	総合防災訓練をイーストキャンプ跡地で実施する。
昭和50年3月22日	大和東三丁目火災で、消火作業に従事していた第6分団員が殉職。市主催の消防葬儀が4月8日に行われる。
4月1日	大和市石油保安協議会設立

10月1日	第6代消防長に濱田浅彦氏就任
	消防本部組織を一部改め、庶務課に庶務防災係を設置する。
昭和51年4月1日	消防本部組織を庶務課、警防課及び予防課に改める。
8月30日	総合防災訓練を相模カンツリークラブゴルフ場で実施する。
9月9日	台風第17号の接近に伴う集中豪雨により災害対策本部を設置するとともに、海上自衛隊第4航空群に災害派遣要請を行う。
10月1日	消防職員定数を126人とする。
昭和52年1月15日	大和市火災警報規則を制定
2月25日	四輪駆動型消防ポンプ自動車（FH60）を北分署と南分署に配置する。
4月1日	第7代消防長に木下永治氏就任
	第4代消防署長に島森長治氏就任
	消防職員定数を134人とする。
8月29日	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車（三菱FK115F）が寄贈され、本署に配置する。
9月2日	大震火災時における市民の生命、身体の安全を確保するため、市内11箇所の地域を広域避難場所として指定する。
昭和53年2月20日	人工蘇生器などを装備した新型救急自動車（トヨタH-RH42VB）を本署に配置する。
2月25日	北分署庁舎新築（建替え）工事が竣工する（鉄筋コンクリート造2階建・一部鉄骨造）。
4月15日	大災害時の情報連絡網として「大和市アマチュア無線非常通信協力会」結成
7月1日	第8代消防長に青木八郎氏就任
8月1日	鶴間台自主防災会結成（自主防災組織第1号）
8月10日	大和市消火器普及会設立
9月1日	市広報無線を新設、市内25箇所に設置する。
10月12日	第9代消防長に大澤作二氏就任
10月23日	起震機による震度6の模擬訓練を市内14か所で実施する。
昭和54年4月1日	消防職員定数を154人とする。
4月11日	地方行政用無線局として免許を受け運用を開始する（F3 61.40MHz 1W）。子局を25箇所増設。市内50の子局に送信し、スピーカーで周辺地域に

	放送する。
7月1日	消防本部組織を一部改め、警防課警防防災係を警防課警防係及び防災係に改め、予防課に査察係を配置する。
8月1日	災害緊急防災備蓄倉庫を市役所内に設置する。
12月29日	消防本部で当日の夜間救急担当医療機関の情報提供を開始する。
昭和55年3月1日	大規模地震を想定し、広域避難場所への避難路を確保するために、街頭消火器50基を市内全域に設置する。
4月1日	消防署組織を一部改め、本署に救助工作車を配置し、専任救助隊を発足させる。  消防職員定数を176人とする。  消防本部・消防署新庁舎（鉄筋コンクリート造4階建）が深見西四丁目4番6号に、柳橋出張所（鉄筋コンクリート造2階建）が柳橋一丁目22番地3に完成する。
5月1日	第10代消防長に土屋栄氏就任  第5代消防署長に石井盛一氏就任
昭和56年3月25日	化学消防ポンプ自動車（三菱FK116F）を本署に配置する。
3月30日	本署に自家用給油取扱所（ガソリン5k1、軽油10k1）を整備する。
4月1日	消防職員定数を184人とする。  防災モニター制度を開始する。
7月1日	消防本部組織を一部改め、防災課を設置する。  第11代消防長に高下晴明氏就任
昭和57年1月10日	消防出初식을イトーヨーカ堂中央林間店で挙行し、消防職員による明治時代の腕用ポンプ操法を披露する。
5月7日	大和ライオンズクラブから広報車（スズキ ジムニー）が寄贈され、警防課に配置する。
9月24日	鶴間新町自治会から、消防史料として消防手押しポンプが寄贈される。
10月6日	防災資機材搬送車（三菱KFE221）を本署に配置する。
昭和58年4月1日	南分署に救急隊を配置し、救急業務を開始する。  医療機関の検索を行うための医療情報端末装置が設置される。
9月1日	水難事故に備え、救助用ゴムボート及び潜水用具一式を整備する。
10月1日	第6代消防署長に星崎亨氏就任



	消防本部及び消防署の組織を一部改める。
昭和59年 4月 1日	地方行政用無線から防災行政用無線に切り替え、運用を開始する。 消防職員定数を 190 人とする。
6月28日	大和市火災予防条例施行規則を制定
10月22日	第1回ミセス火災予防コンテストを開催し、初代ミセス火災予防に片山 泉さんが選出される。
昭和60年 2月28日	消防救急指令装置（全電子式 PD2000）を指令室に装備する。
4月 1日	第12代消防長に小西 庄司氏就任 消防団を 13 分団から 12 分団へ再編成する。 上草柳 1842 番地 2 に西出張所（鉄筋コンクリート造 2 階建）を新築し、水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ S-BR320 改）を配置する。 西出張所の開設に伴い、消防署の組織を一部改める。
8月11日	第1回大和市消防団操法大会を車体工業(株)グラウンドで開催する。
11月 5日	起震車「なまず号」の運用を開始する。
昭和61年 4月 1日	指令室に神奈川県防災行政用無線ファクシミリが設置される。
9月26日	大和市消防職員の職の設置等に関する規程及び大和市消防職員職務権限規程を制定
10月 1日	消防本部・消防署組織を一部改め、消防本部に次長を置き、指令担当主幹を廃止する。消防署副署長及び南・北分署長を廃止し、北分署を北分署第一課・第二課、南分署を南分署第一課・第二課とする。
12月12日	救急自動車（トヨタ L-YH71VB）を北分署へ配置し、救急業務を開始する。
昭和62年 2月 1日	大和市消防旗に関する規程を制定 大和中央ライオンズクラブから防災連絡車（スズキ エブリー）が寄贈され、防災課に配置する。
2月18日	四輪操舵装置、マイナス角度の伸梯可能な特殊機能等を搭載した梯子付消防自動車（30m、ニッサン P-AZ30D）を、本署に配置する。
4月 1日	第7代消防署長に井上 幸雄氏就任
6月 1日	大和市消防庁舎管理規程を制定
7月15日	南分署車庫を増築し、梯子付消防ポンプ自動車（24m）を本署から南分署に配置替えする。
12月26日	大和市救急業務実施規程を制定
昭和63年 4月 1日	第13代消防長に石井 一雄氏就任

7月26日	財団法人日本消防協会から電源照明車（いすゞP-NHR55E）が寄贈され、本署に配置する。
9月12日	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車（ニッサンP-CM87E）が寄贈され、南分署に配置する。
9月29日	大和市防災指導センター設置条例を制定
10月1日	消防防災訓練センターの開設に伴い、消防本部組織を一部改め、総務課内の管理担当を廃止し、訓練指導担当主幹を置く。
10月31日	現場総合指揮車（トヨタN-LH71B）を本署に配置する。
11月1日	消防防災訓練センターを訓練塔（鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階・地上8階建）、補助塔（鉄筋コンクリート造3階建）で開所する。
平成元年1月8日	昭和天皇の崩御により、消防出初式を中止する。
3月6日	指令室に地図検索装置を導入し、運用を開始する。
4月1日	消防本部組織の一部を改正し、警防課消防団担当を廃止する。
6月15日	南分署を上和田2771番地12に鉄筋コンクリート造3階建で新設し、自家用給油取扱所（ガソリン3k1、軽油7k1）を整備する。
6月26日	大和市消防訓練礼式規則を制定
平成2年3月30日	大和市消防署高圧ガス危害予防規程を制定
4月1日	消防職員定数を200人とする。
5月31日	各種情報を的確に把握するため、現場総合指揮車に自動車電話用ファクシミリを搭載する。
8月31日	神奈川県との合同夜間総合防災訓練を、県営下和田いちょう団地で実施する。
9月1日	長洲一二県知事を迎え、神奈川県及び大和市の合同総合防災訓練を引地台公園多目的広場で実施する。
平成3年2月13日	大和市防火基準適合表示及び公表実施要綱を制定
3月6日	消防庁長官表彰として消防本部・消防団に「竿頭綬」が授与された。
3月15日	中層建物火災に対応するため、梯子付消防ポンプ自動車（15m）を南分署に配置する。
3月28日	大和市自主防災組織育成指導要綱を制定
4月1日	第14代消防長に目代文作氏就任
11月7日	極東開発株式会社横浜工場、車体工業株式会社からミニ消防車が寄贈された。

11月10日	第1回消防フェアを東急ストア中央林間店において開催する。
平成4年3月27日	大和市危険物火災予防査察規程を制定
4月1日	消防署組織を一部改め、西出張所を北分署から本署に、柳橋出張所を南分署から本署にそれぞれ組織変更し、本署に専任主幹を置く。さらに、北・南分署第一課、第二課を廃止し、北分署、南分署とする。
4月29日	第1回防災セミナーを開催する。
11月29日	消防団活性化事業の一環として、永年勤続団員の配偶者表彰制度を制定する。
11月30日	大和ライオンズクラブから広報車が寄贈され、消防署庶務担当に配置する。
12月27日	労働基準法の一部改正により、週休二日制を導入する。
平成5年4月1日	消防本部及び消防署の組織を一部改め、警防課に主幹を置き、予防課査察係を予防課査察指導係に、消防署に管理課を置く。  消防職員定数を226人とする。  大和市消防協力会設立  大和市少年消防団運営委員会設立
7月11日	少年期から火災予防に関する知識などを身に付けることを目的に「大和市少年消防団」結成
7月27日	財団法人日本消防協会から、広報車（R-VFY10改）の寄贈を受け、防災課に広報連絡車として配置する。
9月1日	大和市消防職員安全衛生管理規程を制定
12月1日	大和市火災予防査察規程及び火災予防違反処理規程を制定
平成6年1月9日	消防出初式を引地台公園多目的広場で挙行し、大和市消防発足30周年記念事業として、川崎市消防局航空隊ヘリコプターの特別参加を得て、消防救助演技を披露する。
2月20日	消防発足30周年を記念し、大和市保健福祉センターで記念式典を挙行、勤労福祉会館で祝賀会を行う。
3月9日	高度救急業務の推進を図るため、心電図電送システム等の新鋭資機材を搭載した高規格救急自動車を本署に配置する。
3月10日	消防発足30周年記念植樹式が大和市造園協会の協力を得て庁舎南側で行われる（市の木：山ざくら）。
4月1日	本市消防本部で初めての女性消防吏員を採用する。  西出張所に救急隊を配置し、救急業務を開始する。

	大和市消防本部応急手当普及啓発活動実施要綱を制定
4月27日	大和市消防本部第一号の救急救命士が誕生する。
10月3日	大和市消友会設立
平成7年1月18日	阪神淡路大震災の被災者救援のため、救助隊1隊10人を被災地へ派遣する。
3月26日	2台目の高規格救急自動車を西出張所に配置する。
4月1日	第15代消防長に石井洋氏就任
7月1日	第8代消防署長に小菅忠義氏就任
10月1日	株式会社安田物産から連絡車（ニッサンE-WFY10）が寄贈され、総務課に配置する。 行政組織を一部改め、市長部局に防災対策担当が配置される。 消防本部組織を一部改め、総務課総務係を総務課庶務調整担当とする。
12月20日	緊急消防援助隊の登録をし、自治省消防庁より緊急消防援助隊旗を受領する。
平成8年7月1日	救急救命情報伝達システムとして、県救急情報システムの暫定運用を開始する。
10月1日	消防組織法の一部改正により消防職員委員会を設置
平成9年3月31日	新大和市地域防災計画を策定
4月1日	第9代消防署長に石向勝利氏就任
平成10年3月14日	3台目の高規格救急自動車を南分署に配置する。
3月31日	大和市職員防災行動マニュアルを策定
9月16日	消防本部庁舎の耐震補強工事を実施する。
11月21日	いすゞ自動車株式会社より支援車（いすゞKC-FRR33K2G）が寄贈され、本署に配置する。
平成11年2月1日	4台目の高規格救急自動車を北分署に配置する。
3月31日	行政組織を一部改め、市長部局に防災対策課を設置し、消防本部防災課を廃止する。
4月1日	第16代消防長に山口祐徳氏就任 第10代消防署長に熊谷勝司氏就任
11月13日	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車（いすゞKK-FRR33D4V）が寄贈され、南分署に配置する。

平成12年 3月 8日	消防庁長官表彰として、消防本部・消防団に「表彰旗」が授与された。
3月15日	北分署を鉄筋コンクリート造 3階建・訓練棟 7階建に改築する。
4月 1日	梯子付消防自動車（40m、日野 KC-PR4FPDF）を本署に配置する。これに伴い、本署梯子付消防自動車（30m）を北分署に配置替えする。
11月15日	重大事故などの発生時に、情報収集、被災状況の監視などを行い、円滑な市外応急対策活動を行うため、都市基盤整備公団と災害時の塔屋内物見室使用に関する協定を締結した。
12月26日	既存の高圧ガス製造所を改修し、製造能力を 15Mpa（メガパスカル）から 30Mpa に引き上げ、充てん能力を向上させた。
平成13年 1月 1日	いすゞ自動車株式会社から高規格救急自動車（いすゞKC-NPS71LN）が寄贈され、本署に配置し、救急車の 5 台運用を開始する。
3月 1日	指令台を更新し、新通信指令システムの運用を開始する。これに伴い、携帯電話からの 119 番通報の直接受信が可能となる。
3月30日	消防本部庁舎増築及び既存棟の改築が竣工する。
4月 1日	第 17 代消防長に大 津 晃 氏就任 第 11 代消防署長に柏 木 實 氏就任
	柳橋出張所に高規格救急自動車を配置する。
12月21日	本署高規格救急自動車を更新する。
平成14年 2月 1日	大和市消防協力隊を発足する。
4月 1日	消防職員定数を 231 人とする。 第 12 代消防署長に遠 藤 昭 氏就任
	被災情報収集配信システムの運用を開始する。
7月 1日	ドクターヘリの本格運用を開始する。
11月 8日	消防計画の全面改訂
12月17日	神奈川県メディカルコントロール協議会設立
平成15年 3月14日	大和市・綾瀬市合同雑居ビル防火安全連絡協議会設立
3月26日	西出張所に救急消毒施設を設置する。
3月31日	柳橋出張所高規格救急自動車を更新する。
4月 1日	第 18 代消防長に幟 川 泰 夫 氏就任
4月15日	県北・県央地区メディカルコントロール協議会設立

7月1日	消防法改正に伴い、大和市火災予防条例施行規則を改め、大和市火災予防規則を制定
10月1日	包括的除細動を開始する。
10月11日	消防協力会発足 10 周年を記念して、祝賀会が開催される。
11月5日	市内商業施設において爆発事故が発生する。
12月1日	本署に多目的災害対策車を配置する。
平成16年2月1日	消防発足 40 周年を記念して、記念誌が発行される。
2月24日	西出張所消防車を小型水槽付消防ポンプ自動車に更新する。
3月31日	神奈川県医師会による救命情報システムが廃止される。
4月1日	毎月 15 日を「防火・防災の日」と制定する。  北里大学病院救命救急センターからの救急救命士への指示行為を開始する。
	本市女性消防吏員を初めて当直業務に就かせる（救急隊へ配属）。
5月15日	Eメール 119 番緊急通報の運用を開始する。
5月28日	大和市石油保安協議会及び大和市防火管理協会を統合し、大和市防火安全協会を設立
10月29日	新潟県中越地震の被災者救援のため、消火隊 1 隊 4 人及び支援隊 1 隊 2 人を被災地へ派遣する。
11月1日	第 13 代消防署長に江上孝範氏就任
平成17年3月25日	本署に多目的災害対策車用コンテナを配備する。
3月31日	地域での放火・防犯体制を強化して市民の安全・安心を確保するため、大和警察署、大和新聞組合及び大和市消防本部の三者による「放火火災の発生防止にかかる協力に関する覚書」を締結する。
4月1日	「救急マーク」制度創設  消防本部組織を一部改め、警防課指令担当を指令課とし、警防課に救急担当を設置する。
12月7日	小学 1・2 年生下校時間帯における防火・防犯パトロールを開始する。
平成18年2月13日	柳橋出張所消防車を小型水槽付消防ポンプ自動車に更新する。
3月3日	南分署高規格救急自動車を更新する。
3月7日	上草柳西自主防災会と社会福祉法人プレマ会「みなみ風」との間で、「地域防災相互援助に関する覚書」が締結される。

4月1日	第19代消防長に篠田正氏就任 消防本部の組織を一部改め、総務課訓練指導担当を総務課施設研修担当に名称変更し、消防署組織を一部改め、柳橋出張所の所属を本署から南分署に変更する。
6月2日	上和田自主防災会と医療法人赤枝会介護老人保健施設「しょうじゅの里大和」との間に「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
8月3日	薬剤投与認定救急救命士による薬剤投与を開始する。
11月20日	下和田自主防災会と社会福祉法人山中福祉会特別養護老人ホーム「和喜園」との間において「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
11月30日	公共施設へのAED設置を開始する（19台を設置）。
平成19年1月10日	公所自主防災会と社会福祉法人二津屋福祉会（ロゼホームつきみ野）との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
2月1日	北分署高規格救急自動車を更新する。
2月6日	松下電工(株)から高規格救急自動車の寄贈を受ける。
2月8日	高規格救急自動車の寄贈を受け本署に配置し、運用を開始する。
3月4日	大和市「防火・防災の日」の定着を図るため、大和市消防本部において、第1回「消防体験フェスティバル」を開催する。
3月22日	中央林間内山自主防災会と医療法人泉心会介護老人保健施設「大地」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結した。
3月23日	南鶴間自主防災会と特別養護老人ホーム「サンホーム鶴間」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
3月24日	北分署梯子付消防自動車（30m）を屈折型はしご付消防ポンプ自動車（20m）に更新する。
4月1日	消防署組織を一部改め、消防署に指揮隊を配置する。
6月30日	公共施設にAED17台を設置する（設置合計36台）。
9月4日	中央六丁目自主防災会と社会福祉法人徳寿会「晃風園」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
10月15日	大和市消防訓練センター場内において、神奈川DMATとの合同総合訓練を実施する。
11月21日	本署資機材搬送車を更新する。
平成20年1月1日	高機能消防指令装置に指令台を1台増台し、運用を開始する。（ネフオーブ導入）

2月14日	大和東三丁目自主防災会と「大和YMC Aライフサポートセンター」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
2月15日	西出張所高規格救急自動車を更新する。
3月8日	北分署水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
7月4日	公立中学校9校にAEDを設置する（設置合計45台）。
8月7日	上和田自主防災会と社会福祉法人多心会特別養護老人ホーム「ひまわりの郷」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
10月1日	患者等搬送事業者認定制度を創設する。
平成21年3月3日	本署高規格救急自動車を更新する。
3月27日	本署救助工作車を更新する。
4月1日	第20代消防長に紺野幹夫氏就任 第14代消防署長に新井茂氏就任
	消防本部組織及び消防署組織を一部改め、総務課施設担当を警防課施設担当に、警防課救急担当を救急救命課救急救命担当に組織変更し、総務課庶務調整担当を消防総務課政策調整担当に、本署第一課を警備一課に、本署第二課を警備二課に名称変更し、消防署指揮隊に分隊長を配置する。
6月26日	公立小学校19校にAEDを設置する（設置合計64台）。
12月1日	やまとAED救急ステーション制度を創設する。
平成22年3月4日	北分署消防ポンプ自動車を更新する。
3月16日	本署化学消防ポンプ自動車（薬500ℓ・水1,500ℓ）を更新する。
3月26日	総務省消防庁において、大和市少年消防団が「優良な少年消防クラブ」として全国少年消防クラブ運営指導協議会会長（消防庁長官）表彰を受賞した。
7月16日	大和市災害消防協力隊を創設する。
8月1日	火災予防条例の一部を改正し、「個室型店舗における防火安全対策として、外開き戸は自動で閉鎖する」ことを施行する。
8月6日	市内公共施設2か所にAEDを設置する（設置合計66台）。
平成23年3月3日	南分署梯子付消防ポンプ自動車（15m）を更新する。
3月11日	東日本大震災の発生に伴い緊急消防援助隊を派遣する。 派遣期間 3月11日～4月3日（24日間） 派遣人員等 延べ21隊53人（消火部隊1隊5人、救急部隊8隊24人、後方支援部隊12隊24人）



3月14日	柳橋出張所高規格救急自動車を更新する。
3月23日	北里大学ドクターズカーの運用を開始する。
4月1日	第15代消防署長に阿部重二氏就任
6月30日	市内24時間営業のコンビニエンスストア3社(㈱セブン-イレブン・ジャパン、㈱ファミリーマート、㈱スリーエフ)とAED設置に係る協定をする。
10月1日	コンビニエンスストア3社50店舗にAEDを設置する。
10月13日	市内24時間営業のコンビニエンスストア2社(㈱ローソン、㈱九九プラス(ローソン100))とAED設置に係る協定を締結する。
11月5日	島津自主防災会と社会福祉法人徳寿会「晃風園ぬくもり」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
平成24年1月1日	コンビニエンスストア2社19店舗にAEDを設置する(設置合計69台)。
3月1日	車両動態位置管理システムを更新する。
3月5日	地震体験車を整備する。
3月26日	総務省消防庁において、大和市少年消防団が「特に優良な少年消防クラブ」として全国少年消防クラブ運営指導協議会会長(消防庁長官)より表彰旗及び表彰楯を受章した。
6月8日	市内24時間営業のコンビニエンスストア2社(㈱サークルKサンクス、ミニストップ㈱)とAED設置に係る協定を締結する。
8月1日	コンビニ2社10店舗にAEDを設置する(設置合計79台)。
平成25年2月16日	大和市少年消防団設立20周年記念式典を大和スポーツセンターで挙げる。
2月28日	南分署消防ポンプ自動車を更新する。
3月4日	南分署高規格救急車を更新する。
4月1日	第21代消防長に木下弘氏就任 第16代消防署長に関戸宏孝氏就任
6月1日	市内郵便局14か所にAEDを設置する。
8月17日	自主防災組織へ「スタンドパイプ消火資機材」の配付を開始する。
平成26年2月1日	大和市消防発足50周年記念式典を大和市生涯学習センターホールで挙げる。
3月5日	北分署高規格救急自動車を更新する。
3月28日	柳橋出張所増築及び既存棟の改築が竣工する。

3月31日	街頭消火器の撤去を完了した（昭和54年度からの事業を終了）。
7月1日	市内24時間営業のコンビニエンスストア3社（㈱ローソン、㈱ファミリーマート、㈱サークルKサンクス）とスタンドパイプ消火資機材設置に係る基本協定を締結する。
8月1日	市内3事業所（株式会社篤厚自動車、社会福祉法人二津屋福祉会ロゼホームつきみ野、極東開発工業㈱横浜工場）を大和市消防団協力事業所として認定する。
10月1日	警防課に非常時災害対策車を配置する。
10月26日	極東開発工業株式会社横浜工場から電動式ミニ消防車「まもるぞう」の寄贈を受ける。
11月10日	「防火対象物に係る表示制度」の表示マークを大和第一ホテル及び東横イン大和駅前に交付する。
12月8日	市内24時間営業のコンビニエンスストア1社（㈱スリーエフ）とスタンドパイプ消火資機材設置に係る基本協定を締結する。
平成27年3月19日	市内24時間営業のコンビニエンスストア2社（㈱セブンイレブン・ジャパン、ミニストップ㈱）とスタンドパイプ消火資機材設置に係る基本協定を締結する。
3月8日	本署消防ポンプ自動車を更新する。
3月16日	西出張所高規格救急自動車を更新する。
3月18日	下福田南部第二自主防災会と社会福祉法人「敬愛会」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
3月24日	高機能消防指令装置を更新、増台し、運用を開始する。（気象観測装置を北分署・南分署に増設） 消防救急デジタル無線活動波の運用を開始する。（車載28機・携帯15機）
4月1日	第22代消防長に萩野谷公一氏就任 第17代消防署長に保坂美治氏就任 神奈川県消防救急デジタル無線共通波設備の運用を開始する。（神奈川県庁・県内25消防（局）本部） 消防署組織を一部改め、西出張所の所属を警備一課及び警備二課から北分署に変更し、警備一課及び警備二課に救急第二分隊を配置し、消防第二分隊との兼務を開始する。
6月30日	相模鉄道株式会社及び東京急行電鉄株式会社とスタンドパイプ消火資機材設置に係る基本協定を締結し同資機材を設置する。
平成28年1月6日	本署現場総合指揮車を更新する。
3月1日	小田急電鉄株式会社とスタンドパイプ消火資機材設置に係る基本協定を

	締結し同資機材を設置する。
3月7日	本署高規格救急自動車を更新する。
3月14日	南分署水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
6月25日	高等町第一自主防災会と株式会社ハートフルケア住宅型有料老人ホーム「カーサプラチナ大和」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
7月1日	消防法令違反のある建物情報をホームページ等で掲載する制度「違反公表制度」を開始する。
7月29日	大和駅東側第4地区市街再開発組合と「防火水槽等に関する覚書」を締結する。
9月2日	南林間西北自主防災会と医療法人社団公仁会「介護老人保健福祉施設 成和ナーシングプラザ」との間において、「地域防災相互援助に関する覚書」を締結する。
9月7日	内閣府において大和市少年消防団が防災思想の普及団体として防災功労者防災担当大臣表彰を受賞する。
9月20日	NPO法人クライシスマッパーズ・ジャパンと「大和市での災害等における調査研究・支援活動に関する覚書」を締結する。
平成29年1月16日	東京電力パワーグリッド株式会社相模支社と「災害時における通電火災防止・電力復旧に関する覚書」を締結する。
3月8日	消防署救急第二分隊高規格救急自動車を更新する。
3月25日	総務省消防庁において、大和市少年消防団が防火・防災思想の普及団体として優良な少年消防クラブ表彰（消防庁長官賞）を受賞する。
4月1日	第18代消防署長に砂岡正夫氏就任

## 歴代消防長・消防署長

〔消防長〕

(敬称略)

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	金子正雄	昭和39年2月1日～昭和42年3月31日	
2代	遠藤嘉一	昭和42年4月1日～昭和42年6月30日	
3代	濱田浅彦	昭和42年7月1日～昭和43年3月31日	
4代	安藤武治	昭和43年4月1日～昭和48年8月31日	署長兼任期間有
5代	土屋栄	昭和48年9月1日～昭和50年9月30日	
6代	濱田浅彦	昭和50年10月1日～昭和52年3月31日	
7代	木下永治	昭和52年4月1日～昭和53年6月30日	
8代	青木八郎	昭和53年7月1日～昭和53年10月11日	
9代	大澤作二	昭和53年10月12日～昭和55年4月30日	
10代	土屋栄	昭和55年5月1日～昭和56年6月30日	
11代	高下晴明	昭和56年7月1日～昭和60年3月31日	署長兼任期間有
12代	小西庄司	昭和60年4月1日～昭和63年3月31日	署長兼任期間有
13代	石井一雄	昭和63年4月1日～平成3年3月31日	
14代	目代文作	平成3年4月1日～平成7年3月31日	
15代	石井洋	平成7年4月1日～平成11年3月31日	予防課長兼任期間有
16代	山口祐徳	平成11年4月1日～平成13年3月31日	
17代	大津晃	平成13年4月1日～平成15年3月31日	
18代	幟川泰夫	平成15年4月1日～平成18年3月31日	総務課長兼任期間有
19代	篠田正	平成18年4月1日～平成21年3月31日	
20代	紺野幹夫	平成21年4月1日～平成25年3月31日	
21代	木下弘	平成25年4月1日～平成27年3月31日	

## 〔消防長〕

(敬称略)

歴代	氏名	在職期間	備考
22代	萩野谷公一	平成27年4月1日～現在	

## 〔消防署長〕

(敬称略)

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	佐藤幸光	昭和39年2月1日～昭和45年8月31日	
2代	天野淳一	昭和45年12月1日～昭和48年3月31日	
3代	星崎亨	昭和48年4月1日～昭和52年3月31日	
4代	島森長治	昭和52年4月1日～昭和55年4月30日	
5代	石井盛一	昭和55年5月1日～昭和58年4月30日	
6代	星崎亨	昭和58年10月1日～昭和62年2月28日	
7代	井上幸雄	昭和62年4月1日～平成7年6月30日	
8代	小菅忠義	平成7年7月1日～平成9年3月31日	
9代	石向勝利	平成9年4月1日～平成11年3月31日	
10代	熊谷勝司	平成11年4月1日～平成13年3月31日	
11代	柏木實	平成13年4月1日～平成14年3月31日	
12代	遠藤昭	平成14年4月1日～平成16年10月14日	
13代	江上孝範	平成16年11月1日～平成21年3月31日	管理課長兼任期間有
14代	新井茂	平成21年4月1日～平成23年3月31日	
15代	阿部重二	平成23年4月1日～平成25年3月31日	
16代	関戸宏孝	平成25年4月1日～平成27年3月31日	
17代	保坂美治	平成27年4月1日～平成29年3月31日	
18代	砂岡正夫	平成29年4月1日～現在	